

## 第4回 学校再編検討会 次第

### 議事概要

日時：令和3年7月21日（水）

場所：市役所3階 第1会議室

16:27～17:30

#### 1 あいさつ（小林教育長）

・今月末に議会の特別委員会でこの検討会の経過を説明する。また、市民に向けて議事概要を市のホームページで公開する。誤解が生まれないように丁寧に説明し、議論を積み重ねていきたい。

#### 2 協議事項

##### （1）学校再編検討会 会議録について

・表現等加除訂正があれば26日（月）までに事務局に連絡。

##### （2）芦原中学校区の小学校再編について

・【資料1】、【資料2】により事務局から説明。

・推計値としてカウントしている人数は機械的に算出したもの。中高一貫校や私立中学への進学者数は考慮していない。また、特別支援学級に入級する人数も加味していないため入学人数や学級数等は変わってくる可能性がある。

・千曲、坂の上、水明、野岸小を芦原中学校区、東、美南ガ丘小を小諸東中学校区とすると中学校の生徒数が平均化される。審議会ではどのようにして中学校区を定めたのか。

・審議会では野岸小学校区の通学範囲を重視し、乙女区や小原区など小諸東中学校に近い地区の児童が大勢いることから野岸小学校は小諸東中学校区としていた。

・両中学校区の小学校を統廃合する段階で野岸小学校の通学範囲の見直しは必要ではないか。

・第3回の検討会では、野岸小学校の学校規模が見通せないため、野岸小学校の扱いは小諸東中学校区の学校再編の際に改めて検討することとなっているが、芦原中学校区の小学校を再編する段階ではっきりしておかなくては、問題が複雑になってしまわないか。

・芦原中学校区での新校建設は最短で5、6年後だと思われる。野岸小学校を芦原中学校区に組み入れると統合小学校の児童数が多すぎるように感じる。やはり現時点では答申にそって坂

の上、水明、千曲小学校の3校統合が妥当ではないか。

- ・地域の方の意見を聞くことも一案。赤坂区や八幡町区等、現在進学先の中学校を選択できる地区から新校進学を希望することも考えられる。現状は保護者の出身校、児童の友人の有無で進学先を選択していることが多いように思うが、新校ができればそちらを選択したいと考える地区も少なくないのではないか。
- ・兄弟で進学先が分かれる家庭もあるので、希望する保護者は僅かではないか。
- ・個別に考えてしまうとまとまらない。地区で意見を聞いても意見が割れてしまうことも予想される。ひとまず市として方針を出すべきではないか。
- ・答申に関するアンケートの中で市民の関心や意見が通学校区の見直しについて集中しているならばこの検討会で協議すべき。
- ・そもそも検討会として何年後までを見通して協議すべきか。文部科学省では机の大きさや教室の広さを見直す動きがあると聞いた。全てを決定してしまうと国の施策変更に対応できなくなってしまう。現在の出生数から推測できる12年後程度が適切かと思うがいかがか。
- ・10年、12年後を見越して考えたのでは、またすぐ新校検討の時期がきてしまう。25年後ぐらいまで見通す方が良いのではないか。
- ・間断なく議論をしても検証期間が短く議論の根拠がない。芦原中学校区再編後は小諸東中学校区内で小学校の通学校区の変更を含めて検証する必要があるのではないか。
- ・現在の通学校区が定められてから相当の期間が経過し、まちの賑わいの様子も変わってきている。通学校区変更に取り組むタイミングは今しかないのではないか。
- ・令和10年頃の予想児童数をみると野岸小学校の児童数の減少がやはり気になる。更に先の推計値を元に野岸小学校を芦原学校区新校に組み入れた場合、学校規模が均等となるのであれば、あえて議論を先延ばしにする必要性がないのではないか。
- ・人口推移は予測がつかず答申の意見を超えるほどの論拠にはなりにくい。やはり答申の意見を原則として検討を進めたい。おそらく、野岸小学校区の方達の気持ちとしては、数年前に建て替えた校舎を活用することを前提にしているのではないか。
- ・小諸東中学校に近い地区に住んでいる子ども達の進学先を芦原中学校にすると決めるには、やはり無理があると思われる。答申のとおり芦原中学校区に小学校3校、小諸東中学校区に

3校が妥当。

・ 今後は芦原中学校区の人口をどのように増やすかが問題ではないか。そうなってくれば教育委員会だけでなく市の施策にも関わってくる。

⇒芦原中学校区の小学校再編については答申のとおり進める。

### (3) その他

○次回開催予定：8月4日（水）